

# 環境報告書

2009

概要版

武蔵野クリーンセンター

## 私たちの取り組み

武蔵野クリーンセンターは、昭和59年10月より稼動を開始し、市内で発生する可燃ごみ、不燃・粗大ごみと有害ごみの処理を行っています。この施設が稼動するまでは、三鷹市との共同処理を行っていました。しかし、共同処理施設のあった三鷹市新川周辺住民の方々による武蔵野市のごみ搬入阻止行動を発端に、武蔵野市内にごみ処理施設建設に向け、様々な市民委員会の議論を経て、武蔵野クリーンセンター周辺住民の方々の理解と協力のもとに建設することができ、25年間の操業を続けてまいりました。

武蔵野クリーンセンターは、これまで安全、安定稼動に努め、法で定められた基準より厳しい協定基準値、各種基準値を順守し、周辺環境などに配慮し、操業をしております。さらに、ごみの焼却からの熱利用、ISO14001の認証、地球温暖化対策、緑化の保全など地域の良好な環境を維持し、環境負荷の低減を図り、環境にやさしい施設運営に取り組んでおります。



市長（写真中）に運転状況を説明する  
責任者写真（写真右）

## 環境方針

### 【基本理念】

私たちが受け継いできた環境を守り育み、将来の世代に引き継いでいくことが我々の責務と考えています。武蔵野クリーンセンターは、市民生活に欠かせないごみ処理を行いながら、地球環境を保全し、環境負荷の少ない循環型社会を目指していきます。

市街地で操業する施設として、地域環境に配慮し、かつ安全を最優先とし、安全で安定的な施設運営を努めていきます。

### 【活動方針】

- 1 「武蔵野クリーンセンター操業に関する協定書」及び環境に関する法令等を順守します。
- 2 武蔵野クリーンセンター操業に際しては、環境負荷の低減及び環境汚染の予防に努めます。また環境管理活動の見直しを定期的に行い、継続的改善に努めます。
- 3 ごみ焼却により生じる熱エネルギーの有効利用と不燃・粗大ごみ処理で回収された金属類を資源として有効利用をし、操業に際して省資源、省エネルギーを推進します。
- 4 施設の公開及び環境情報の提供をすることにより、環境保全の意識の高揚に貢献し、良好な環境の確保に努めます。

本報告書は、平成20年度の環境管理活動の状況や成果をまとめ、武蔵野クリーンセンターをより広く知っていただくために2009年度版としてはじめて作成したものです。ご一読の上、ご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。今後、さらにわかりやすい環境報告書を目指してまいります。

## ISO 14001

武蔵野市では、平成12年3月に武蔵野クリーンセンターを含む市の組織全体で環境管理の国際標準規格であるISO14001の認証を取得しており、武蔵野市環境マネジメントシステムにより環境方針、環境目標を定め、環境負荷の低減と法規制値などの順守に努めています。

この武蔵野市環境マネジメントシステムの環境方針を基に、武蔵野クリーンセンターの施設運営における、より具体的な基本理念、活動方針を定めました。今後、さらなる環境負荷の低減に努めていきます。

## 地球温暖化対策への取り組み

地球温暖化対策の取り組みとして、東京都の「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（環境確保条例）」による地球温暖化対策計画を平成17年度より5ヵ年で実施し、操業の効率化や一部機器の入れ替えなどのソフト・ハードの両面の対策に取り組んでいます。平成14～16年度の二酸化炭素平均排出量を基準とすると平成20年度の排出削減量は約680tとなっています。

### \* 主な取り組み

- 空調設備各送風機類のインバータ制御の導入
- 空調設備各ポンプ類のインバータ制御の導入
- 焼却炉運転管理改善（3炉運転の削減）

## 環境負荷を減らす取り組み

排出ガス等の協定基準値を順守し、できる限りの環境負荷の低減に努めています。

雨水を再使用のウスキー樽に貯留し、花壇などの散水に利用しています。



排ガス状況表示版



雨水貯留樽

## 環境活動

環境負荷の継続的な低減に関する知識、技術や技能を習得できるよう研修、視察等を実施しています。また薬品、排ガスの漏れなどの緊急事態に備え訓練を実施しています。火災が発生したとき、初期消火活動を行うための自衛消防隊を組織しています。



消火訓練

## 武蔵野クリーンセンターの概要

### 【焼却施設】

処理能力：195t／24h（65t×3基）  
炉形式：全連続燃焼式焼却炉（ストーカ式）  
建物：鉄筋コンクリート造り地上4階地下2階  
建築面積 3,297.8㎡（計量棟等付属棟含む）  
煙突：角形鉄筋コンクリート外筒形  
内筒3本鋼製集合式 高さ59m

### 【不燃・粗大ごみ処理施設】

処理能力：50t／5h 1基  
回転せん断衝撃式横型破砕機  
建物：鉄筋コンクリート造り地上3階地下1階  
建物面積 1,363.5㎡

## コミュニケーション

### 【運営協議会の開催】

武蔵野クリーンセンターの操業に関して、北町五丁目町会、緑町三丁目町会及び緑町二丁目三番地域住民協議会と武蔵野市で「武蔵野クリーンセンター操業に関する協定」を締結し、かつ「武蔵野クリーンセンター運営協議会」を設置しています。武蔵野クリーンセンターは、武蔵野クリーンセンター操業に関する協定に基づき、安全・安定的に操業しているとともに、武蔵野クリーンセンター運営協議会において、施設の運転状況、運転計画及び各種分析結果の報告を市より受け、運営状況の監視をしています。

\* 武蔵野クリーンセンター運営協議会の開催は2ヶ月に一度の頻度で行われ、平成22年2月で173回が開催され、また運営協議会の広報誌（運営協議会だより）は46号（平成21年9月現在）を発行し、周辺約3,500世帯に配布しています。武蔵野クリーンセンター1階事務所でも配布しています。

\* 武蔵野クリーンセンター運営協議会のホームページ

(<http://www.city.musashino.lg.jp/cms/guide/menu/m0375.html>)

### 【寄せられた意見、要望】

武蔵野クリーンセンターでは、地域の方々や市民からの問い合わせ、苦情については迅速な調査、適切な対応に努めています。

### 【施設見学】

武蔵野クリーンセンターでは、市内小学校4年生の社会科見学をはじめ、市民の見学、国内外の視察など様々な対応をしております。事前に電話などでお申し込みのうえ、ぜひご参加ください。

（平日の午前9時～午後5時までの間 所要1時間半程度 応相談）

# 環境対策

武蔵野クリーンセンターでは、「武蔵野クリーンセンター操業に関する協定書」の操業基準値や法令による規制基準値等を順守し、操業しています。

## 【操業基準値】

### (1) 排ガス

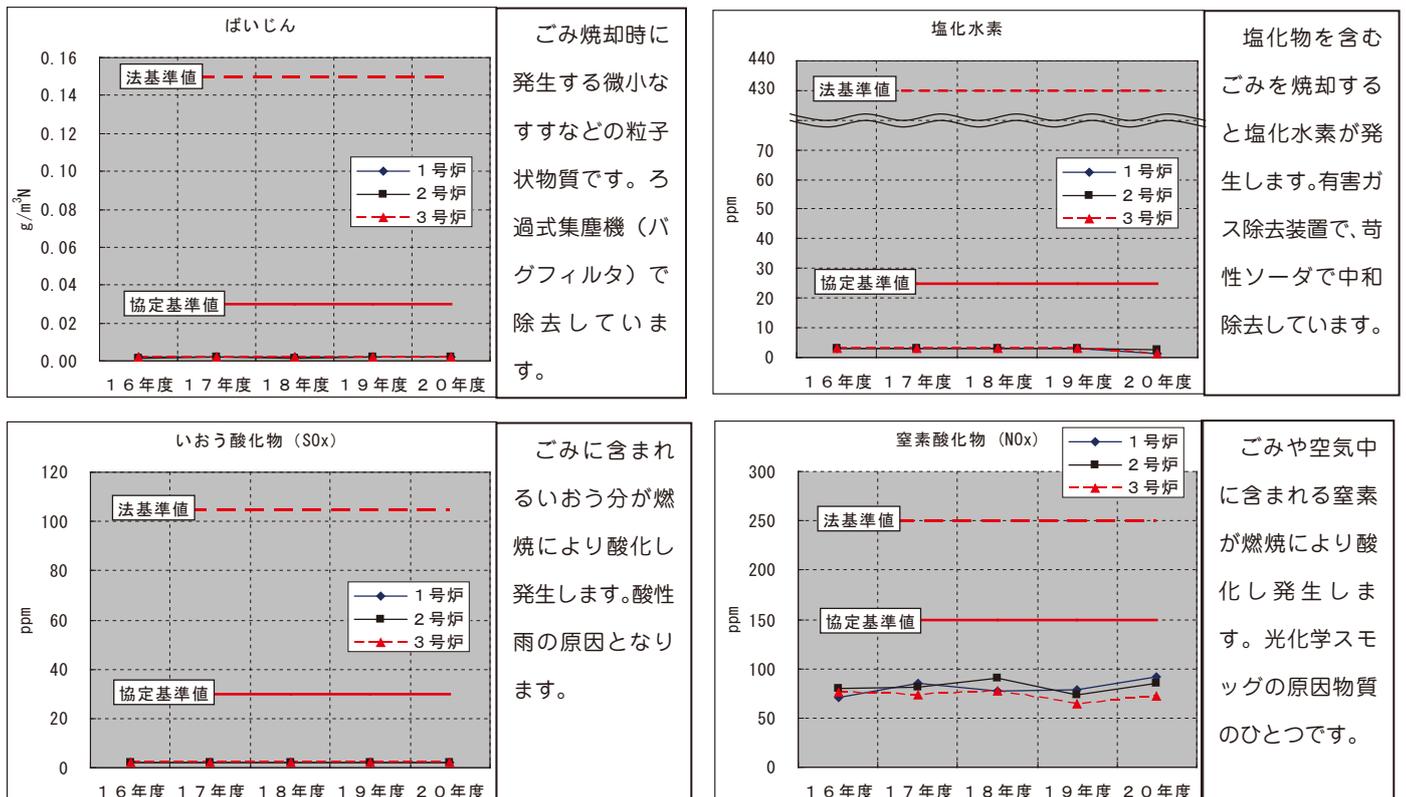
項目	基準値
ばいじん	0.03 g/m <sup>3</sup> 以下
硫黄酸化物 (SO <sub>x</sub> )	30 ppm 以下
窒素酸化物 (NO <sub>x</sub> )	150 ppm 以下
塩化水素 (HCl)	25 ppm 以下

### (2) 排水

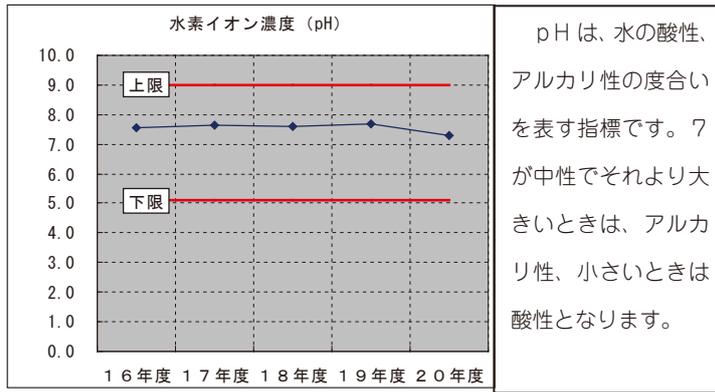
水質項目	基準値	水質項目	基準値	
温度	45℃未満	カドミウム含有量	0.1 mg/l 未満	
水素イオン濃度 (PH)	5.1以上9未満	鉛含有量	1 mg/l 未満	
生物化学的酸素要求量 (BOD)	600mg/l 未満	クロム (6価) 含有量	0.5 mg/l 未満	
浮遊物質 (SS)	600mg/l 未満	砒素含有量	0.5 mg/l 未満	
ノルマルヘキサン抽出物質含有量	鉱油	5 mg/l 未満	総水銀含有量	0.005mg/l 未満
	動植物油	30mg/l 未満	クロム含有量	2 mg/l 未満
沃素消費量	220mg/l 未満	銅含有量	3 mg/l 未満	
フェノール類含有量	5mg/l 未満	亜鉛含有量	5 mg/l 未満	
シアン含有量	1mg/l 未満	鉄 (溶解性) 含有量	10mg/l 未満	
アルキル水銀含有量	検出されないこと	マンガン (溶解性) 含有量	10mg/l 未満	
有機磷含有量	1mg/l 未満	弗素含有量	15mg/l 未満	
		P C B 含有量	0.003mg/l 未満	

排水基準の変更に伴い 鉛含有量 1mg/l 未満 → 0.1mg/l 未満  
 砒素含有量 0.5mg/l 未満 → 0.1mg/l 未満 に変更

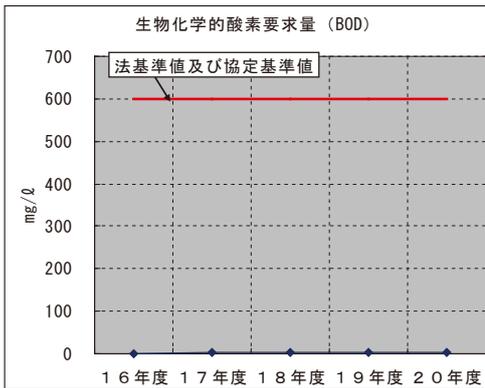
## 【平成16年度から平成20年度の排ガス測定結果の推移】



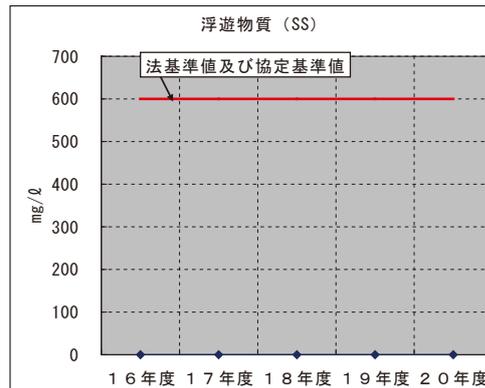
【平成16年度から平成20年度の排水測定結果の推移】



pHは、水の酸性、アルカリ性の度合いを表す指標です。7が中性でそれより大きいときは、アルカリ性、小さいときは酸性となります。

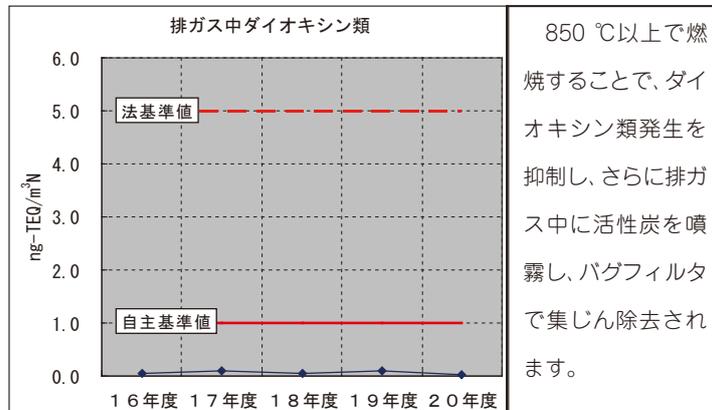


水の有機物による汚れを表す指標です。水中の有機物が微生物により、分解されるときに消費される酸素の量のことをいいます。

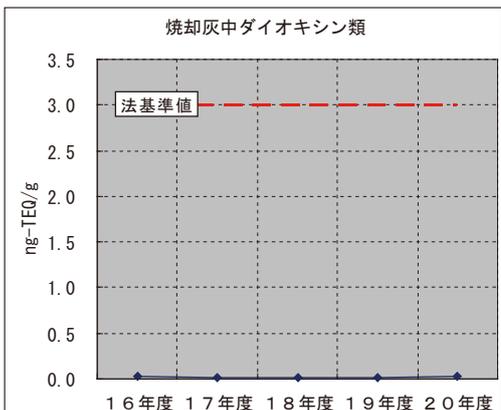


水中に浮遊している粒子状物質の量です。浮遊物質が多いと透明度が悪くなります。大変低い値で推移しています。

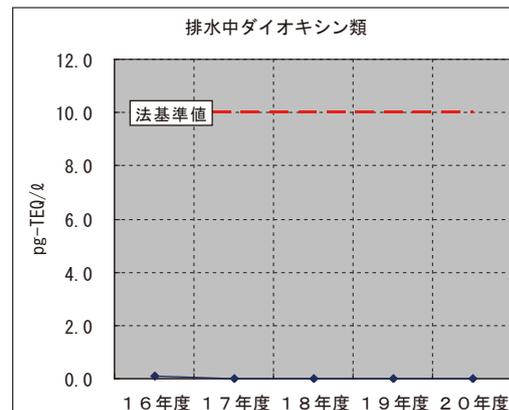
【平成16年度から平成20年度のダイオキシン類測定結果の推移】



850℃以上で燃焼することで、ダイオキシン類発生を抑制し、さらに排ガス中に活性炭を噴霧し、バグフィルタで集じん除去されます。



燃焼によって生成されたダイオキシン類の一部は灰に入ります。

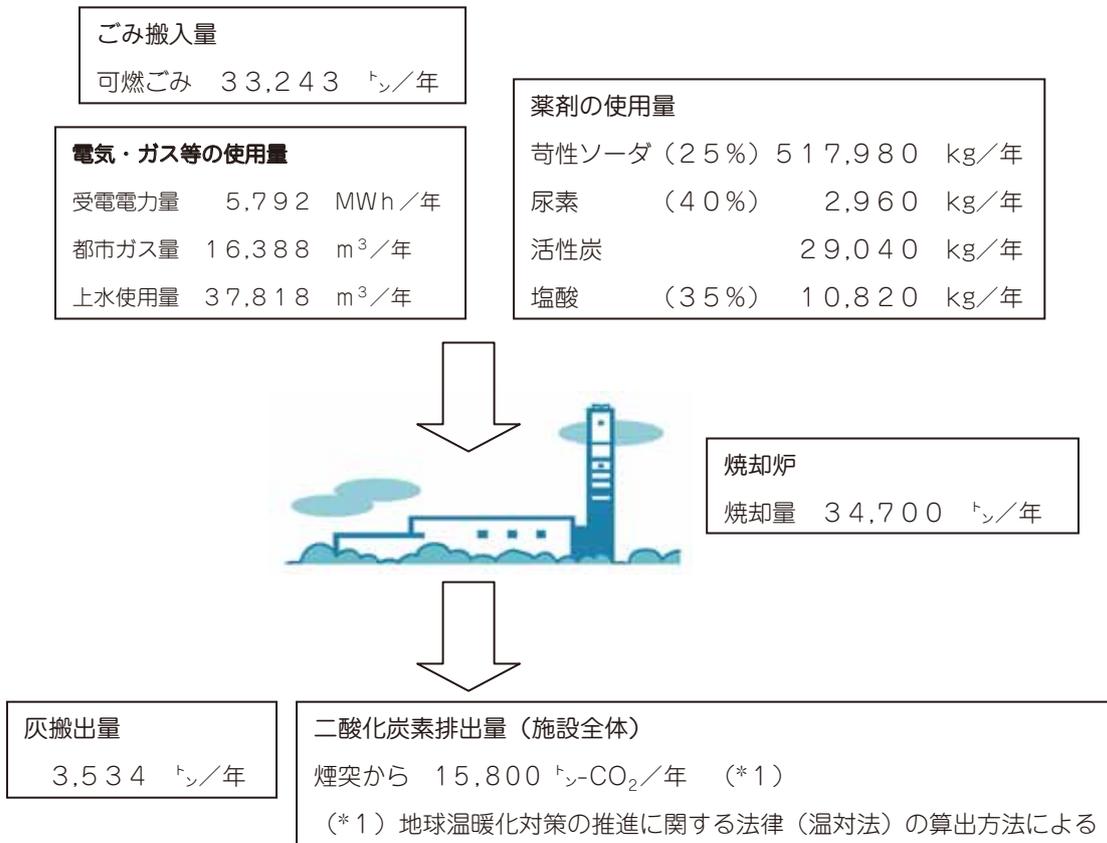


排ガス中のダイオキシン類の一部は排ガスを洗浄している有害ガス除去装置から排水に入ります。

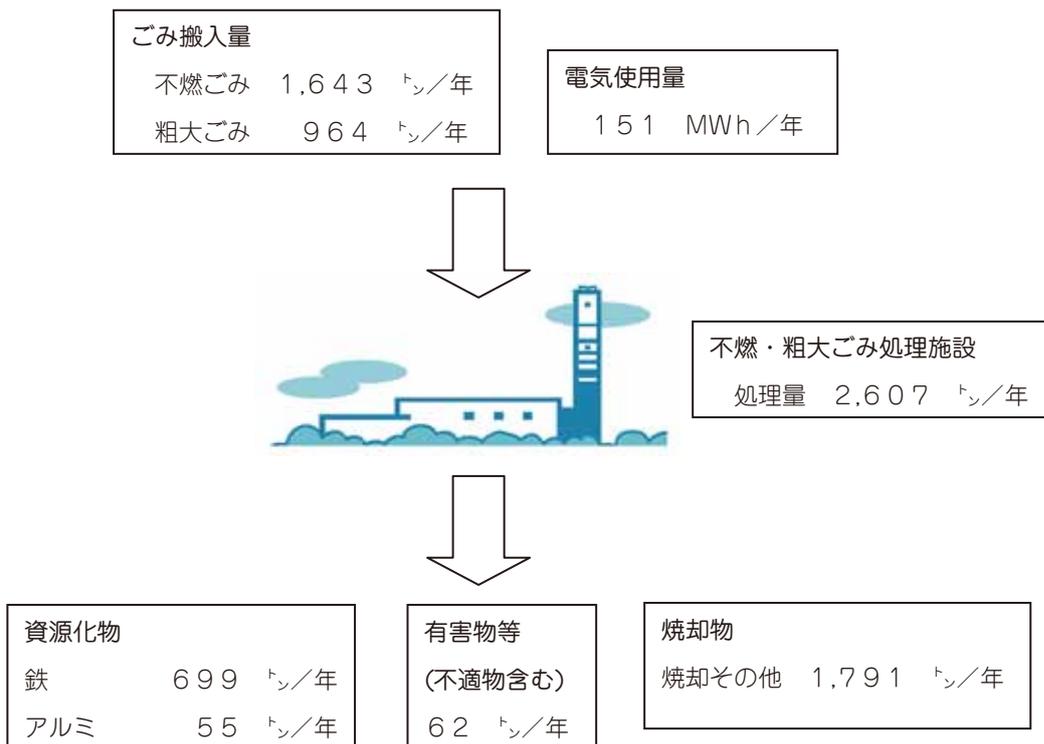
## 環境負荷

平成 20 年度の焼却施設と不燃・粗大ごみ処理施設の物質収支は以下のとおり。

### 【焼却施設】（平成 20 年度実績）



### 【不燃・粗大ごみ処理施設】（平成 20 年度実績）



## 熱の利用

ごみの焼却により発生した熱を市庁舎、総合体育館の冷暖房に利用しています。さらに市営プールと市立第四中学校の温水プールの熱源として利用し、クリーンセンター内の冷暖房及び給湯にも利用しています。



## 焼却灰、金属の有効利用

### 【焼却灰の有効利用】

可燃ごみを焼却したときに残る灰（焼却灰）は、日の出町にある東京たま広域資源循環組合のエコセメント化施設に搬入し、エコセメントの原料としています。このエコセメントは、コンクリート二次製品（インターロッキング等）の材料として、有効利用されています。



エコセメント工場



インターロッキング

### 【金属の資源化】

不燃・粗大ごみ処理施設で回収された鉄、アルミなどは、再資源化しています。

## 案内図、問い合わせ先

武蔵野クリーンセンター

〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5

TEL 0422-54-1221

FAX 0422-51-9194

E-Mail: [cnt-clean@city.musashino.lg.jp](mailto:cnt-clean@city.musashino.lg.jp)

発行年月 平成21年10月（概要版 平成22年3月）

次回発行予定 平成22年6月

作成者 和地 稔、加藤 太一郎

発行責任者 木村 浩

